校友会上海支部例会報告（2021 年３月５日実施）

３月５日（金）、日本人街の古北エリアにある中国料理店『孔乙己酒家』にて例会が開催されました。上海ガニで有名なお店ですが、旬ではないため残念ながら食すことはできませんでしたが、それでも他の料理もおいしく、また紹興酒もお勧めで、皆さんお酒がすすみ大変盛り上がりました。

依然、新型コロナウイルスの影響はありますが、今回計 14 名の参加となり前回よりは増えております。隔離なども落ち着き、駐在者は大部分が上海に戻ってこられているようです。

ただ３月という事もあり、校友会メンバーのみならず上海全体でも例年より本帰国の方が増えている印象がございます。

そのような中で校友会の場は、利害関係なくアットホームな雰囲気で過ごせる唯一の場として皆様認識されているようで、このような状況だからこそ、なおさら海外生活の拠り処となっているようでした。





上海も冬に入り、日本同様コロナ感染者数が増えた影響で(増えたとは言え正式公表では、上海で１日数名いるかいないか)、今年の２月の春節は皆様、帰国はもちろん国内旅行も自粛し、上海市内に留まりおとなしく過ごされていたようです。

また、上海市内を出る際は基本的に PCR 検査が必要となりました。皆様、仕事の関係上、上海市内を出ることが多く、人によっては PCR 検査を 5 回以上受けている方、毎週受けている方など PCR 検査が大部分の病院で受けることができるほど日常化しております。

このような状況の中で、校友会を開催する事様々なご配慮あってこそと思います。この場を借りて、幹事の奥原様へ感謝申し上げたく、今後も一層校友会メンバーで上海を盛り上げていけたらと思います。

また、個人的には１日でも早くコロナがおさまり、家族と共に校友会に参加できていた本来の姿に戻る日を願って上海での職務に邁進して参りたいと思います。

上海も三寒四温の体調の崩しやすい季節となっております。皆様お身体ご自愛頂き、まずは次回の例会が無事開催できる事を切に願っております。

（2005 年度中国語学科卒　平田直樹）